

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	近江 雅代	職名	教授	学位	博士(医学)(福岡大学 2002 年)
----	-------	----	----	----	---------------------

研究分野	研究内容のキーワード
臨床栄養学、栄養形態学	全身性エリテマトーデス、食事因子、症例対照研究、低タンパク栄養、生食野菜の殺菌、超微形態学的研究

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・全身性エリテマトーデスに関する症例対照研究 ・一般財団法人肝疾患研究会との共同研究：肝疾患(慢性肝炎・脂肪肝)レシピの考案ならびに肝疾患の啓蒙・予防活動 ・株式会社西鉄ストアとの共同研究：栄養バランスに配慮したお弁当メニューの開発および提案 ・非加熱野菜による食中毒防止のための殺菌方法の確立 ・『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開 ・低タンパク栄養が母親および乳仔ラットに及ぼす影響

担当授業科目
栄養治療学Ⅰ(前期) 栄養治療学Ⅱ(後期) 臨床栄養学実習Ⅱ(後期)(分担) 臨床栄養活動論(後期)(共担) 総合演習Ⅱ(前期)(分担) 臨地実習Ⅱ(後期)(共担) 管理栄養士演習Ⅱ(通年)(分担) 初年次セミナーⅠ(前期)(共担) 臨床栄養学(後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【栄養治療学Ⅰ・Ⅱ】</p> <p>本科目は、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目標としている。各回、疾患の成因および病態について、2 年次までに修得した科目と関連付けながら解説した。その上で、各疾患における栄養食事療法の意義と目的を説き、栄養アセスメント、栄養ケア計画・実施、モニタリングが連動していることを理解できるよう、留意した。教科書を最大限使用し、かつ、ノート作成をするために、できるかぎり板書を行い、講義した。教科書での不足に関しては、補足プリントの配布を行った。また、毎回の講義終了後、講義内容を復習するための確認テストを配布した。提出されたテストは次回の講義までに採点し、学生に返却することにより、学生は自身の知識の修得を確認することに繋がったものと思われる。本科目は、臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)と密接に関係した科目であるだけでなく、臨地実習要件科目でもあるため、厳しく、かつ、わかりやすい講義を心がけた。</p> <p>授業科目名【臨床栄養学実習Ⅱ】</p> <p>本実習では、各疾患の病態および栄養状態を把握し、調理実習を通して、栄養・食事療法に対応できる知識および技術の修得、ならびに、食事療法を必要とする疾患・病態の症例を提示し、栄養アセスメント、栄養ケア計画の実際、食事療法の調整、栄養指導までの一連の流れについて修得することを目標としている。『栄養治療学Ⅰ・Ⅱ』で修得した知識を活用し、身体状況や栄養状態に応じた疾患・病態別の献立を作成し、調理することのできる能力を養うよう、留意した。各回、1 疾患を挙げ、栄養管理のポイントを説明した後、調理示範を行いながら、調理のポイントや留意点を説明した。調理実習中は、各班をまわり、個別指導を行った。</p>

また、献立作成能力を高めるため、全員の提出献立にコメントをつけ、学生は自身の献立内容の振り返りを行い、今後の献立作成への課題を見つけることができたと思われる。さらに、献立作成に必須である食品の目測についての試験(数種類の食品の名称ならびに重量を目測で解答)を行い、食品の目測に対する能力を点数として評価した。加えて、数種類の症例を準備して、栄養アセスメント、ケア計画および栄養指導の実際としてロールプレイを実施し、栄養管理の一連の流れを体得できるよう、工夫した。本科目は、臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)と密接に関係した科目であるだけでなく、臨地実習要件科目でもあるため、厳しく、かつ、わかりやすい実習を心がけた。また、学生にとっては病院実習ならびに栄養士・管理栄養士業務に向けての、より自主的・意欲的に臨むきっかけになったものと推察する。

授業科目名【臨床栄養活動論】

本科目は、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、これまでに修得した栄養教育の知識や技術を基礎として、栄養ケア計画の作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育について修得することを目標としている。そのため、実務家教員として、医療の現場で活躍されている管理栄養士ならびに医療に関する法律の専門家を招聘し、第一線の臨床の場での管理栄養士の活動ならびにチーム医療での管理栄養士の活動の実際を学び、医療人としての心構えを培った。実際、学生の多くは本科目受講により、職業選択に対し、参考になったと回答しており、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、3年後学期終了後、学生は臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)での学外実習を控えており、本科目が臨地実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性の気づきにもなったものと思われる。

授業科目名【総合演習Ⅱ】

本科目は様々な症例検討を行い、これまでに学んだ専門的知識を統合して、管理栄養士として、適切な栄養管理ができる能力を養うことを目的としている。各回、1～2疾患の症例を提示し、まずは学生自身で検討を行った後、症例疾患の成因、病態および治療法について、学生からの解答を導きながら、説明した。その後、詳細な解説を配布して、疾患を総合的に理解し、具体的な栄養管理方法を解説した。また、最終学年の演習であることから、管理栄養士に必要な最新の情報や関連領域のトピックについても、説明した。

授業科目名【臨地実習Ⅱ】

本実習は、臨床栄養の実践活動の場(病院)における学外実習を通して、管理栄養士として必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、具備すべき知識・技能を修得することを目標としている。病院において、2～3週間の実習を行うため、事前学習として、4回のオリエンテーションを実施し、実習の目的、実習に対する心構えおよび身だしなみ等について、細かく指導した。実習評価表に記載されている項目に関しては、学生自身の知識を整理するために、自己学習ノートの作成を指示し、実習に対する事前学習の機会を設けた。また、実習施設より出された課題については、時間を問わず、個別に添削指導し、実習をお願いする大学として、できる限りの指導を行った。実習中は、実習施設を訪問し、施設の实習指導担当者の指導等に基づき、学生への指導を行った。また、今後の実習のあり方や事前指導等について、病院管理栄養士の方との意見交換を行い、次年度以降の実習内容の改善や実習先確保に繋げた。

授業科目名【管理栄養士演習Ⅱ】

本科目は、管理栄養士国家試験教科『臨床栄養学』分野の出題傾向およびポイントを理解することを目標としている。臨床栄養学の問題数は26/200問であり、本演習の中で、過去5年分を網羅するよう、スケジュールを組んだ。1回の演習において、学生は10～15問の過去問を解き、その後、詳細な解説を配布して、1問ずつ説明を加えながら解説した。

授業科目名【初年次セミナーⅠ】

大学は、学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり、基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力が求められる。これらの力を獲得するためには、ただ単に基礎的な知識を効率よく覚えるということではなく、自らが積極的に課題を探索していく姿勢をもたなければならない。初年次セミナーⅠでは、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本の強化を図るため、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等のICT活用法等、大学で主体的に学ぶ技法の習得を目指す。また、情報倫理に基づくメディア・リテラシーの習熟を図る。管理栄養士を目指して入学した学生同士の交流を図りながら、学びの姿勢を育むため、グループワークを中心とした学修を展開した。また、学生がさまざまな実験実習に対応できるように『栄養学科で使用する計算・単位』『レポートの書き方』等、実際の事例を用いることにより、理解を促した。

また、学生が4年間の学びを積極的に取り組むために、本学卒業生2名(栄養教諭・病院管理栄養士)からの講話を拝聴し、管理栄養士としての将来像を明確にできるよう、講演会を企画した。

授業科目名【臨床栄養学】

本科目は、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目標としている。看護師に必要な臨床栄養の知識を理解するために、病院における栄養管理に始まり、疾患別の栄養管理を解説した。教科書を最大限活用し、重要ポイントについては、板書を行った。教科書の不足に関しては、補足プリントの配布を行った。講義では、これまでに経験した栄養管理の実際や栄養に関するトピック等を話題として取り入れ、臨床栄養をより理解しやすくなるよう、努めた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本栄養士会	正会員	2003年 4月～現在に至る
日本栄養改善学会	正会員・評議員	2003年 4月～現在に至る
日本病態栄養学会	正会員・評議員	2003年 4月～現在に至る
日本給食経営管理学会	正会員	2012年 4月～現在に至る
日本臨床栄養協会	正会員	2012年 4月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. 『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開～2018年度事業概要ならびに参加者の行動変容～	共著	2019年9月	第66回日本栄養改善学会学術総会 (於 富山県民会館)	①本学では地域住民の健康増進に貢献すべく公開講座を開催している。2018年度参加者の殆どが市内住民であり、その数は開催以降、漸次増加し、本事業は地域に根差した食育活動として定着したと推察される。アンケート項目『塩分』については、本事業のテーマに複数回挙げられ、参加者は実際に減塩食を喫食し、調味に慣れてきたことが、行動変容の一因になったものと推察される。また、『血圧測定』の増加は、学生による血圧測定による効果と考えられ、本事業は参加者が自分自身の生活習慣を改善する強い動機づけになっていると考えられる。

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. 大量調理業務における歩数の経時的変化～実施回数による比較検討～	共著	2019 月 9 月	第 66 回日本栄養改善学会学術総会 (於 富山県民会館)	<p>②近江雅代、境田靖子、田川辰也、手嶋英津子、高橋甲枝、辻澤利行、引地尚子、中道敦子、石井愛子、田中貴絵、永田純美、八木康夫</p> <p>③第66回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P242)</p> <p>①大量調理中の歩数を経時的に測定し、実施回数による比較検討した。調理3回目の歩数が開始直後から増加したのは、学生が経験を重ね、早い時間帯から下準備を進めたため、その後の主調理・盛り付け時の歩数が減少し、効率的かつ余裕をもち、作業できたと考えられる。一方、2回目の調理総歩数と変動係数が小さかったのは、実施間隔が短く、調理に対する慣れによるものと思われる。従って、学生が全体の流れを把握し、作業効率を考えながら従事するためには、実施間隔は2か月程度、3回以上の大量調理業務の経験が必要であると推察される。</p> <p>②石井愛子、境田靖子、手嶋英津子、近江雅代</p> <p>③第66回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P302)</p>
3. 熟成期間の異なる糠床の美味しさの評価～菌叢解析ならびに官能評価による比較検討～	共著	2019 月 9 月	第 66 回日本栄養改善学会学術総会 (於 富山県民会館)	<p>①熟成年数の異なった糠床を用いて菌叢解析ならびに糠漬けの官能評価による比較検討を行った。熟成糠床の菌叢の約8割がL. acetotoleransが占めたのに対し、糠床(新)は約5割であり、熟成年数の違いにより、菌叢構造が大きく異なった。また、この違いが糠床の香气成分の産生に影響し、特に『旨味』に対する効果に違いがみられることが明らかとなった。</p> <p>②舩越淳子、飯田健一郎、波多野淳子、千々和勝己、近江雅代</p>

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
4. 女子学生および母親の月経前症候群と食品群別摂取量との関連	共著	2019年9月	第66回日本栄養改善学会学術総会 (於 富山県民会館)	<p>③第66回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P269)</p> <p>①女子学生および母親の月経前症候群(PMS)と食品群別摂取量との関連について検討した結果、月経随伴症状は女子学生、母親ともに月経前が月経後に比べて有意に高く、月経前に愁訴が強いことが示された。また、PMS症状に関わる食品群別摂取量は学生世代と母親世代で異なることが示唆された。しかし、いずれも決定係数が低いことから、PMSに及ぼす食事の影響はあまり大きくないことが考えられた。</p> <p>②森口里利子、今井克己、岩本昌子、中園栄里、<u>近江雅代</u>、津田博子</p> <p>③第66回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P310)</p>

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開	西南女学院大学共同研究費	○田川辰也 看護・福祉・栄養学科教員 九州歯科大学	1,067,000
糠床および糠炊きの美味しさの検証ならびに穀類・豆類を利用した新規加工食品の創製	西南女学院大学共同研究費	○船越敦子 近江雅代 高橋幸夫 (飯田健一郎)	1,233,920
『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開	一般社団法人全国栄養士養成施設協会助成金	○八木康夫 栄養学科教員	70,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
肝疾患(慢性肝炎・脂肪肝)レシピの考案ならびに肝疾患の啓蒙・予防活動	一般財団法人 肝疾患研究会	500,000	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
・福岡大学医学部看護学科『食と生活』	非常勤講師	2008年4月～現在に至る
・株式会社西鉄ストアとのコラボ商品 (弁当・惣菜)の開発および提案	責任者	2014年3月～現在に至る
・西南女学院大学・九州歯科大学連携 公開講座(4回/年)	企画・給食担当	2014年4月～現在に至る
・一般財団法人肝疾患研究会との共同 研究：肝疾患レシピの考案ならびに 肝疾患の啓蒙・予防活動	責任者	2019年5月～現在に至る
・無法松酒造株式会社との共同研究： 酒粕・梅を使ったレシピ開発	責任者	2019年11月～現在に至る
・中村学園大学栄養学部栄養科学科 『臨床栄養学概論』『疾病別栄養管 理Ⅰ』	非常勤講師	2019年5月～7月
・第66回日本栄養改善学会学術総会 口頭発表『食品・食品成分・食品機 能3』	座長	2019年9月7日
・西南女学院大学・九州歯科大学連携 公開講座2019年度第3回シンポジ ウム『健康で豊かに生きるために、 健康長寿を目指して～専門家によ る健診と自宅のできる健康管理～』	シンポジスト	2019年10月19日
・『発酵 JAPAN in 北九州 2019 秋』ぬ か炊き×大学コラボメニューにて1 位獲得	企画・作成・提供	2019年11月8日～10日
・令和元年度後期北九州市民カレッジ 『令和から始める食生活の改善～ 健康長寿を目指しましょう～』	講師	2019年11月14日
・2019年度一般財団法人肝疾患研究会 ×西南女学院大学栄養学科 学生 のための講演会『肝疾患～NAFLD と NASH について～』	企画・献立作成・給食担当	2020年1月18日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

- 教務委員(2014年4月～現在に至る)
- 就職委員(2018年4月～2020年3月)
- 教育の質保障プロジェクト委員(2014年6月～現在に至る)
- 管理栄養士国家試験対策委員(2013年4月～2020年3月)
- 管理栄養士国家試験対策講座(前期・夏期集中・後期・国試直前)